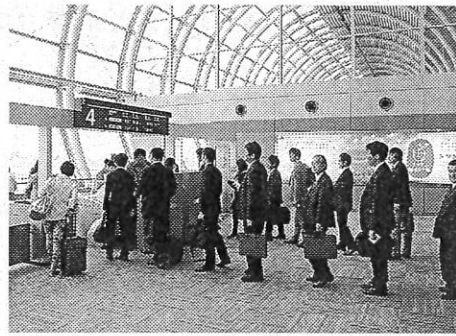


日本PFI・PPP協会(植田和男理事長)の「仙台空港等と公共施設等運営権研究会」は17日、関西国際空港(関空)の視察ツアーを実施した。仙台空港を出発したメンバーたちは、関空のターミナルを視察したほか、運営会社の新関西国際空港の担当者らを講師に招き講演会を行った。佐々木一十郎宮城県名取市長も参加した。研究会メンバーのうち49人は12日に仙台便が就航したPeach(ピーチ)で関空に向かった。関空では現地合流も含めて73人が参加し、LCC(格安航空会社)タ

PFI・PPP協の研究会



仙台空港を出発

仙台からLCCで関空視察

ーミナルなどを視察した後、講演会に移った。講師の新関西国際空港会社経営戦略室総合企画グループの轟木一博リーダーは「関西国際空港の運営」をテーマに、同社の組織編成や経営統合のスキーム、伊丹空港事業の継承などについて解説した。路線誘致などを行う航空営業部については、「空港運営と営業活動がワンストップでできるのは民間の強み」とアドバイス。「将



講演する轟木氏

来的にはコンセッション方式での運営を目指しており、皆さんと同じような課題も抱えている」と続いた。続いて、研究会のメンバーでもあるセンコン物流の福井邦道社長室参与が「仙台空港における国際空港貨物輸送の現状と課題」につ

いて講演した。仙台空港の民営化については、「運営は地元の企業に担ってほしい。空港周辺の活性化には第1次産業の活性化と道路整備が重要。観光資源をつくり、50年先を見据えてやってほしい」と希望を語った。講演終了後、植田和夫理事長は「空港の一体管理は本来の姿であり、LCCに乗り、関空に直接触れることは大変参考になった。一つひとつ積み上げて提案につなげたい」と話した。6月の次回研究会では、閣議決定された民営空港運営法案を取り上げる。